

## 諮問事項

変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか《審議期間：令和5年8月から令和7年3月まで》  
《審議回数：令和5年度1回、令和6年度2回 計3回》

## 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところである。さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核を担う消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化しているところである。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。

## 課題1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長していくことが重要である

## 方向性1（審議事項）

## 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策

- 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくり
  - ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策
  - ・ 消防団員が行う総合防災教育（防災行動力を身に付けるため学校教育において行う防災教育）等を通じた、将来を見据えた児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策

## 方向性2（審議事項）

## 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、区の地域特性や消防団の現況（構成等）を踏まえ検討

- 団活動によりやりがいを持てる方策
  - ・ やりがいを感じる活動や各世代等でやりがいに違いがあるかなど
  - ・ 検討結果に基づき、やりがいを持てる方策内容について
- 資格取得講座の拡充
  - ・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等
  - ・ 多様な職業等からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修
- 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座
  - ・ 各地域に根付いている企業や官公庁、消防団協力事業所等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘

## 課題2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である

## 方向性1（審議事項）

## 消防力維持のため、計画的な人材育成方策

- 操法訓練と実動訓練の実施の目安
- 訓練効果の確認方策
- 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容の検討
  - ・ 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施、火災対応訓練の推進
  - ・ 団員の活動技術や実績に応じた識別方策
- 経験豊富な団員（中核となる団員）による訓練指導体制
  - ・ 長年の消防団活動で培った知識や技術を実践的訓練指導への反映（指導マニュアルの作成）
  - ・ 訓練指導者の研修や体制など制度について

## 方向性2（審議事項）

## 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策

- 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方の検討
  - ・ MCA無線に代わる無線機への更新や配置人員の見直し、無線関係機器の統合による利便性の向上
  - ・ 電話や緊急情報伝達システムに代わる出場指令手段の導入
- 分団ごとに配置されたタブレットを活用したシステムの検討
  - ・ 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入
- 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等の検討
  - ・ 環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上、負担軽減